

地域林政対談 イン大分

林業の成長産業化の実現に向けて林業を着実に発展させ、地域における雇用の場の創出と所得水準の向上をもたらす産業へと転換することが極めて重要な課題となっています。

このような中で、地域の森林・林業行政を牽引されている市町村長及び県関係者と九州森林管理局の林業関係機関が、各々の地域で実際に直面している具体的な課題について、同じ視点に立って今後の地域林業政策を展開していくことを目指して、情報交換や意見交換を行う懇談の場として「地域林政対談」を実施しています。

第二十一弾は、豊後大野市の川野文敏市長にご参加いただき、地域林政の今後の展開や森林・林業の可能性などについて、意見交換を行いました。



天狗岩から見た祖母山

【写真：豊後大野市提供】

将来に向かって繋いでいくことのできる持続可能なまちづくり
〔豊後大野市長〕

豊後大野市の市町村森林整備計画について、平成28年度の策定に当たり大分森林管理署にご協力いただき感謝申し上げます。本計画に基づき、まずは市有林の整備を計画的に進めたい。

豊後大野市では、有害鳥獣による農林業被害が甚大である。先般、農家の方々と座談会を実施したが、このままでは耕作意欲がなくなってしまうとの声をいただいた。林業においても、有害鳥獣対策は喫緊の課題であると考えているので、国・県のご支援をお願いしたい。



川野文敏 豊後大野市長

月にオープンさせた。指定管理者は東京のIT企業である。従業員も着実に増え、今月から食事の提供も始まった。エコパークを訪れていた方々に、山の良さを体験してもらったための施設であるが、動植物の研究拠点としても活用したい。「LAMP豊後大野」を中心として、エコパークの取組を活性化させたいと考えている。

現在、国や県の支援をいただき、祖母山9合目にあるバイオトイレの改修を行っているところ。施設を新しくしても、使い方によってはまた壊れてしまうので、きちんと運営・管理していきたい。

また、山小屋の整備や登山道の整備についても課題であると思っている。定期的に会議を開催し、関係者間で様々な検討をしているところであるので、新たな取組へのご支援・ご協力をお願いしたい。



LAMP 豊後大野

地域林政対談イン大分

平成29年6月14日、大分県と宮崎県にまたがる祖母・傾・大崩山系が「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」（以下、「エコパーク」という。）に登録されたところ。世界から認められたということで、地域住民にとって誇れるものになるよう、市民と一緒に取組を進めていかなければならないと考えている。市としては、まずはエコパークの拠点施設が必要であるというところで、旧・祖母山麓尾平青少年旅行村を「LAMP豊後大野」としてリニューアルし、平成29年8

(エコパークの活性化について)

豊後大野市長 エコパークについて、ユネスコから、保護を図る核心部分が少ないので拡充できないかという指摘をいただいている。核心地域は大部分が国有林であることから、核心地域をどう管理していくべきかも含めて、森林管理署にご指導をお願いしたいと考えている。

大分森林管理署長 昨年6月に登録された段階で、ユネスコから核心部分の拡充に関して意見があったところである。現在、意見を受けて検討が始まった段階であると認識している。ユネスコから10年ごとに審査を受けるので、再審査に向けて検討していきたい。

九州森林管理局長 核心地域のエリアは、国有林としても独自に森林生態系保護地域に設定し、厳正な保護管理を行っている。核心地域の拡充に関しては、局・署において検討していきたいが、一方で、一度核心地域に設定されれば、森林の取扱も非常に厳格になってくる。エコパークは、自然と人の共生がテーマであることから、保護と利用のバランスが重要であると考えている。関係者間で利用方法についても十分検討したうえで、今後どのような管理をしていくべきか考える必要がある。

大分森林管理署長 核心地域の外側にある緩衝地域の国有林は、人工林が分布していることから、間伐などの森林施業や林道整備も実施しているので、そういった箇所への影響を含めて検討を進める必要がある。



キレンゲショウマ

【写真：祖母・傾・大崩ユネスコパーク推進協議会HP】

豊後大野市長 エコパークの目指すところは自然と人の共生であるので、保護一辺倒でもいけないと考えている。

大分森林管理署長 登山道の整備等、森林管理署としても協力できることはやっていきたいと思うので、色々ご相談いただきたい。

九州森林管理局長 核心地域は基本的には天然林であるが、緩衝地域は人工林も含まれている。宮崎県綾町では、人工林の森林整備を進めながら、照葉樹林化を図り、段々もとの植生に戻していくという取組を実施している。核心地域の拡充を考えた場合、保護と利用のバランスが重要となってくる。

豊後大野市長 「LAMP豊後大野」では、IT企業が運用していることからインターネット環境も整備され、利用者にも喜んでもらっているところ。関係市町村とも連携して、海外からも利用客を呼び込むなど、エコパークの観光資源としての活用についても検討していきたい。市民にとっても、ジオパークはまだ認知度が低い。これから一步一步進めていきたい。



祖母山

(豊後大野市森林整備計画について)

豊後大野市農林整備課長 豊後大野市の市町村森林整備計画策定に当たり、大分森林管理署にはモデル地区として重点的にご指導・ご支援いただいているところであり、感謝申し上げます。市町村職員は林業に関する専門知識を有する者が少ないことから、国や県からの支援に感謝している。行政機関だけでなく、森林組合も含めた推進チームを立ち上げ、実効性を持たせた計画作りができたと考えている。伐採面積の上限の設定など、独自の考え方を整理することもできたところである。今後、次期計画の見直しも含めて推進チームで検討していく予定としているので、引き続きご指導をお願いしたい。

そのような中、大分森林管理署での取組も参考に、試験的に、市有林に大苗を植栽したところ。シカ対策に有効であると思うので、今後検証しつつ拡大させていければと考えている。

豊後振興局農山村振興部総括課長補佐 伐採と造林の一貫作業システムの実地研修の中で、森林総合研究所にも協力いただきながら、1・4 mの大苗を植栽したところ。シカ対策として、通常どおりまっすぐ植えているもの、15度傾けて植栽しているもの、また30度傾けて植栽しているものなど、3パターンで植栽している。今後、シカ対策はもちろん、下刈の省力化に向けて生育状況等を検証していきたいと考えている。



推進チームによるゾーニング検討会

九州森林管理局長 現在、国有林は事業を全て委託して実施している。地域経済の活性化に寄与するという点においても、どうやって国有林・民有林の仕事を回していくのかという点においても、担い手の育成は非常に重要である。特に造林作業の担い手が減っている。国有林でも中苗の植栽など低コスト造林に取り組んでいるところであるが、特に下刈の省力化を進めていかなければならないと考えている。

全産業が人手不足のなか、山の仕事があるということとをどうやって多くの人に知ってもらうのが課題である。国、県、市町村が一緒になって林業の担い手を育成していかなければならない。大分県が取り組まれているおおいした林業アカデミーにも期待している。市町村でもぜひ声をかけてもらいたい。

豊後大野市長 大野郡森林組合では、作業員の新規雇用や機械化を進める予定。今後、作業班を増やして、間伐に加えて主伐・再造林を進めていきたい。市では再造林、下刈に対して上乘せ補助をしているが、伐採後は天然更新が多いのが現状であり、まだまだ再造林が広がっていない。今後いかにPRをしていくのが課題である。

大分県林務管理課主幹 素材生産業者は増加傾向にあるものの、造林業者は減少している。県としても、伐採と造林の一貫作業システムの実施に対し重点的に支援をしていきたいと考えている。また、作業員の負担軽減のため、エアコンスーツの導入などにも試験的に取り組んでいくことを検討している。その他、新規就労者の研修に対する支援も拡大させていきたいと考えている。

九州森林管理局長 森林資源は充実してきているが、林業経営体がいなければ続かない。森林資源の循環利用を実践していくためには、シカ対策を含めて事業を実行していく林業経営体がいなければならない。いかに人を確保していくのが重要である。持続的に作業員を雇用できる林業経営体を重点的に支援していきたい。

豊後大野市長 近年、都市部からの移住者が増えている。市でも空き家バンクの活用など取り組んでいる。少しずつ実績が出てきていると感じている。農業分野への就労、定着に繋げていきたい。林業は農業と違い、何十年というスパンで物事を考える必要があるので、系統的に推進していくことが重要だろうと思っている。

九州森林管理局長 專業林家としては、昔は数十ヘクタールで良かったかもしれないが、今は数百、数千ヘクタール規模で集約化して管理経営しなければ、林業だけでは生活していくことができない時代であると思う。また、キノコなどの特用林産物も併せて経営していくということもある。專業林家だけではなく林業を仕事にしている事業者を含めて考えれば自分の山だけでなく、他の人の山も含めて集約化して仕事を回し、作業賃で稼いでもらうということではないか。

大分森林管理署長 担い手を確保するためには、安全確保が重要である。林業の労働災害件数は減少しているものの、死亡災害が減っていない。林業という産業全体で、技術力の向上が必要。市内的林業事業者の技術力を向上させるにはどうしたらよいか、といった視点も必要なのではないか。技術力も上がる、災害も少ないといったモデルができれば、林業従事者も増えていくのではないかと思う。

九州森林管理局長 林野庁でも緑の雇用制度など、担い手対策を実施しているところであり、ぜひ活用してもらいたい。就労・定着には安全確保と安定した収入が条件である。林業だけでなく、観光業や農業など組み合わせることも考えていけばよいのではないか。その魅力をどう伝えていくのが課題である。

大分森林管理署長 緑の雇用制度は、就業者の確保に一定の役割を果たしていると思うので、ぜひ活用してもらいたい。充実した森林資源を背景に、雇用環境の改善も含めた担い手の育成・確保は重要な課題である。

（国土の保全に向けて）

豊後大野市長 国土の7割は森林であることから、国土保全のためにも森林整備は重要である。近年の大規模災害を防止する観点からも、国で対策を検討してもらいたい。十分な予算の確保と効率的な執行が必要である。

九州森林管理局長 国も県も、同じ思いである。既存の補助制度と国の森林環境税、県の森林環境税などうまく組み合わせて活用していただきたい。

今後、新たな森林管理システムのスキームのもと、森林所有者の責務を明確化したうえで、意欲と能力のある林業経営体に森林整備を委ねることとなる。林業経営体に委ねることのできない森林は、国の森林環境税を活用して市町村自ら森林整備を行っている。ただくなど、市町村の役割は益々重要となってくる。**豊後大野市長** 森林所有者の責務の明確化は非常に重要。空き家問題と同様、所有者不明の森林は多い。ある程度強制力を持つて取り組むべきと考えている。**九州森林管理局長** 不在村地主の問題は、森林だけの問題ではなく、最終的には国土管理の問題であると思っている。喫緊の課題として、今までより踏み込んだ形で取り組んで参りたい。



おおいた林業アカデミー実習風景

地域林政対談 イン 大分

平成30年3月19日(月) 13:30～15:30

豊後大野市役所会議室

出席者(敬称略)

○豊後大野市

川野 文敏

市長

衛藤 好夫

農林整備課長

○大分県

河野 賢一

林務管理課主幹

重松 真二

豊肥振興局農山村振興部課長補佐(総括)

○林野庁九州森林管理局

原田 隆行

九州森林管理局長

川畑 宏二

大分森林管理署長

勝沼 太志

九州森林管理局企画調整課長

